

介護職における資質向上のための自己啓発活動の検証

笠原智子¹，藤田直美²，野村礼³

1) 済生会山口地域ケアセンター 2) あいおい苑 3) みのり苑

I. 研究目的

2007年の社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法案において、専門家としての「資質向上の責務」¹⁾が取り上げられている。介護を取り巻く時事問題を理解し多様化するニーズに応えていくには、現場で実際にサービスを提供する介護職員一人一人の自己研鑽が必要となる。また、介護福祉士の社会的地位の向上を考える上でも、質の確保は欠かせなくなっている。

森本佳樹²⁾は「福祉現場で行われている職務上の行為のすべて『ソーシャルワーク』『ケアワーク』技術と称するには無理があるが、いずれにせよ対人援助場面では相当程度そうしたスキルが求められており、社会福祉士や介護福祉士資格を取得しているからといって、そのスキルが習得されているものではないことは明らかである」と述べている。しかし、専門職として必要とされる知識や技術の習得は積極的に進んでいるといえるだろうか。

自己啓発活動を促進し、研修に意欲的に参加できるようになることで、介護職員全体の資質向上につながり、利用者に今まで以上に満足できるサービスを提供できると考える。

研修参加にあたっては、雇用形態や所属部署によっても参加可能な日時や研修に求めるニーズは異なり、研修の開催方法を工夫することにより、参加しやすくなるのではないかと考える。

新しい知識や技術の習得に個人がどの程度意識的に研修に参加しているか自己啓発活動の実態を明らかにすると共に、研修に参加できない要因や求められている研修のありかたについて検証する。

II. 研究方法

1. 対象

2010年11月時点で、3法人の介護職員302名を対象とし、回収数は264票（回収率87%）であった。

2. 調査方法

留置法による自記式質問紙調査

3. 調査実施期間

2010年11月1日～11月15日

4. 主な調査内容

職員の経験年数・雇用形態・所属部署・資格等の基本属性に加え、①職場内での研修についての参加程度や回数、参加理由、研修開催についての日時や内容の希望 ②職場外での研修についての参加程度や回数、参加理由、研修開催についての日時や場所、参加費、内容の希望 ③自己啓発活動についての程度や具体的な内容 ④仕事に関する意識についてなど22項目とした。

5. 調査に際しての倫理的留意

調査実施に際しては、当該施設の管理責任者の承認を得るとともに、文書にて調査対象者への調査目的の説明を行い協力の同意を得た。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、データ管理責任者を決めて一元的に管理を行った。

6. 分析方法

職員の雇用形態や所属部署（表1）等の基本属性、研修参加理由や開催希望について単純集計およびクロス集計で示した。

尚、雇用形態において、パート職員やその他派遣等の職員は非常勤職員に含めた。

表1 所属部署の分類

施設系	老人保健施設・ケアハウス・グループホーム・ショートステイ・療養型病棟・特別養護老人ホーム・介護老人ホーム・身体障害者施設
在宅系	ヘルパーステーション・訪問入浴
通所系	デイサービス・通所リハビリ

III. 結果

1. 基本属性

表2 回答者の基本属性

項目	人数	総数比率
性別	女性	203 77%
	男性	59 22%
	無回答	2 1%
雇用形態	常勤	161 61%
	非常勤	100 38%
	無回答	3 1%
所属部署	施設	175 66%
	在宅	52 20%
	通所	35 13%
	無回答	2 1%
介護に関する資格の有無	ある	289 94%
	ない	12 5%
	無回答	3 1%

2. 自己啓発活動の状況

(1) 職場内研修参加度

「参加しているほうだ」「参加している」と回答したのが、常勤55%、非常勤34%であった。(図1)

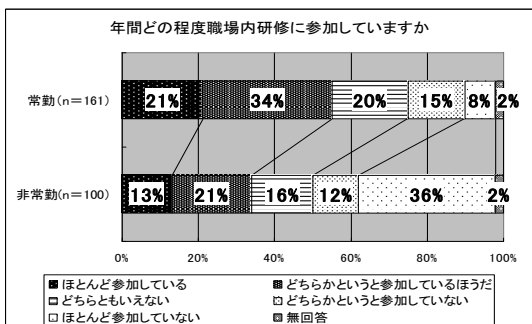


図1. 職場内研修参加度

(2) 職場外研修参加度

「参加している」「参加しているほうだ」と回答したのが、常勤14%、非常勤7%であった。

参加度は職場内研修の半分以下であった。又、「参加している」と答えた常勤が0%に対し、非常勤が2%であった。(図2)

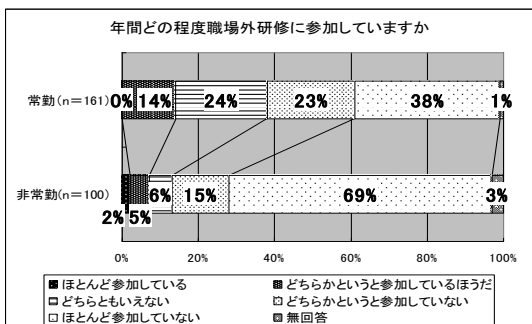


図2. 職場外研修参加度

(3) 研修以外での自己啓発

「行っている」「行っているほうだ」と回答したのが、常勤11%、非常勤12%であった。(図3)

雇用形態での差異はあまりなく、全体的にみると「行っていない」「あまり行っていない」が61%と半数を上回った。

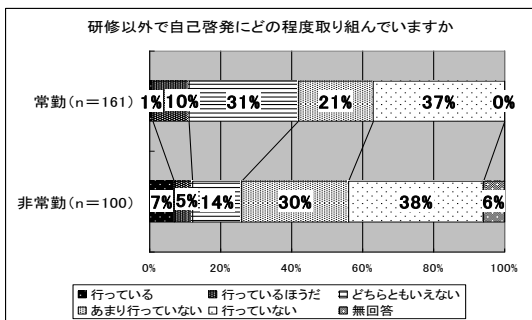


図3. 研修以外での自己啓発

3. 雇用形態、所属部署ごとの参加要因

(1) 職場内研修について

①参加する理由

「スキルアップ目的」の回答が多く、雇用形態、所属部署で、順位に差はみられない。(表3)

表3 職場内研修に参加する理由(複数回答)

	常勤			非常勤		
	施設	在宅	通所	施設	在宅	通所
①内容や講師	45	8	7	13	13	2
②開催日時	36	2	3	7	4	2
③誘われたから	9	0	2	2	2	2
④職員だから	52	5	6	8	10	0
⑤スキルアップ	65	11	8	18	15	4
⑥欠席できない	29	0	2	3	1	1
⑦告知されていた	62	6	6	10	6	2
⑧その他	2	0	0	2	2	0

②参加しない理由

「開催日時が悪かったから」の回答が多く、雇用形態、所属部署で、順位に差はみられない。(表4)

その他の自由記述では「勤務の都合」「産休、育児の為」等が挙がっていた。

表4 職場内研修に参加しない理由(複数回答)

	常勤			非常勤		
	施設	在宅	通所	施設	在宅	通所
①内容や講師	18	1	1	2	2	1
②開催日時	74	4	6	23	11	8
③行く人がいない	4	0	2	3	0	0
④対象者でない	5	1	1	8	2	5
⑤活かされない	4	0	1	1	0	0
⑥強制でない	13	1	2	4	1	3
⑦知らなかった	17	0	3	4	0	2
⑧その他	23	3	1	6	4	1

③開催についての希望

ア、開催曜日

常勤、非常勤ともに「平日」と答えたのがもっとも多かった。

イ、開催時間

常勤は「17時以降」の回答が多かったが、非常勤は所属別でも希望する時間帯にばらつきがみられた。

(図4)

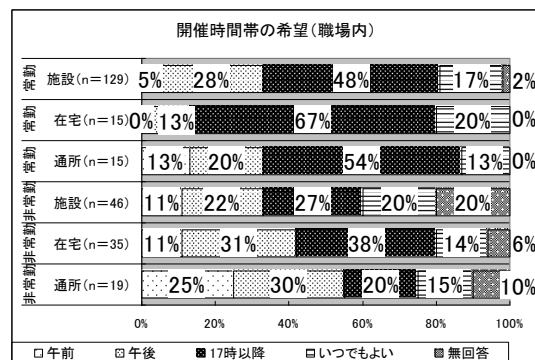


図4. 職場内研修の開催時間の希望

④希望する研修内容

雇用形態、所属部署で希望する内容が異なる。(表5)

表5 職場内研修の内容についての希望(複数回答)

	常勤			非常勤		
	施設	在宅	通所	施設	在宅	通所
①介護技術	58	7	8	19	18	11
②リスクマネジメント	41	5	4	6	1	2
③虐待について	22	4	6	3	0	0
④感染症	46	5	4	1	6	6
⑤急変時の対応	75	4	10	22	16	9
⑥認知症について	53	8	8	20	10	7
⑦接遇	39	6	6	6	3	7
⑧倫理	24	5	3	1	4	0
⑨制度	34	5	8	4	3	0
⑩事例検討	36	8	3	11	10	4
⑪その他	14	0	0	3	1	1

(2) 職場外研修について

①参加する理由

「内容や講師に興味があった」が多く、雇用形態、所属部署で、順位に差はみられない。(表6)

表6 職場外研修に参加する理由(複数回答)

	常勤			非常勤		
	施設	在宅	通所	施設	在宅	通所
①内容や講師	60	8	6	10	6	2
②開催日時	13	5	5	2	2	0
③誘われたから	10	0	5	2	1	0
④スキルアップ	51	8	6	6	4	1
⑤職場の勤め	40	2	5	5	3	1
⑥告知されていた	14	1	3	4	3	1
⑦その他	2	1	0	0	0	1

②参加しない理由

「開催日時が悪かったから」の回答が多く、雇用形態、所属部署で順位に差はみられない。(表7)

その他の自由記述では「産休、育児の為」「費用がかかる」等が挙がっていた。

表7 職場外研修に参加しない理由(複数回答)

	常勤			非常勤		
	施設	在宅	通所	施設	在宅	通所
①内容や講師	24	2	2	4	5	2
②開催日時	54	8	5	13	10	9
③行く人がいない	5	0	3	1	0	2
④活かされない	6	2	1	1	1	0
⑤強制でない	14	1	3	8	2	5
⑥知らなかった	24	1	2	6	4	2
⑦その他	14	0	1	11	3	2

③開催についての希望

ア、開催曜日

雇用形態、所属部署で希望が異なる。(図5)

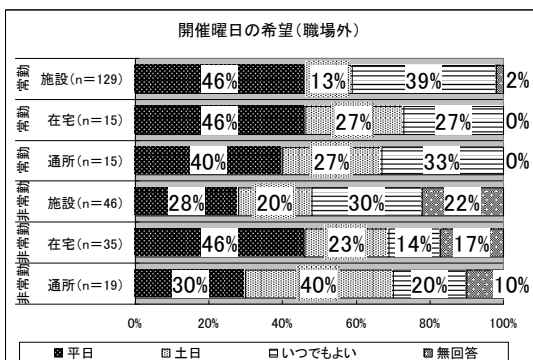


図5. 職場外研修の開催曜日の希望

イ、開催時間

所属部署内でも希望がことなる。(図6)

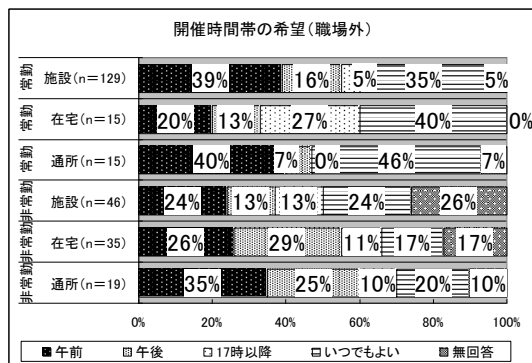


図6. 職場外研修の開催時間の希望

④希望する研修内容

常勤は「認知症について」、非常勤は「介護技術」の回答が多かった。(表8)

表8 職場外研修の内容についての希望(複数回答)

	常勤			非常勤		
	施設	在宅	通所	施設	在宅	通所
①介護技術	54	6	7	18	14	13
②リスクマネジメント	44	8	4	4	1	3
③虐待について	18	6	3	2	5	4
④感染症	30	8	3	11	7	7
⑤救急法	61	5	8	16	11	7
⑥認知症について	70	10	9	15	10	7
⑦接遇	37	5	4	7	4	5
⑧倫理	21	6	3	3	4	2
⑨制度	40	8	6	5	7	1
⑩事例検討	49	6	6	9	6	6
⑪その他	11	0	0	0	1	0

4. 仕事に関する意識について

各項目「どちらでもない」との回答が多く、雇用形態での差異はあまりないが、『ア. 自分の好きな仕事をしている』『オ. 自分の仕事は家族・友人に評価されている』の項目においては、「そう思う・とてもそう思う」の回答が半数を上回っている。(図10)(図11)

「そう思う・とてもそう思う」の回答者の内部研修・外部研修参加度は全体のデータと差異はなく、「仕事に関する意識」と参加度は比例していなかった。

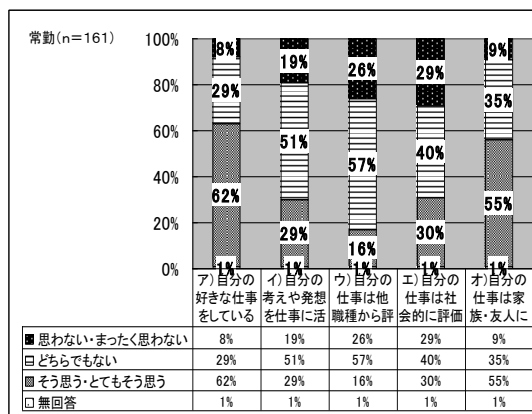


図10. 仕事に関する意識 [常勤]

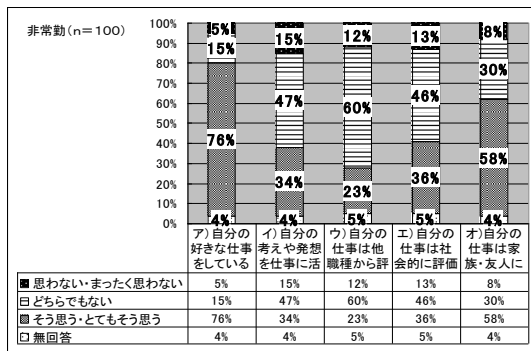


図11. 仕事に関する意識 [非常勤]

IV. 考察

職場内研修では、「参加できない理由＝開催日時」と、雇用形態、所属部署別に見ても要因は同じではあることが分かった。しかし、希望開催時間帯を見ると常勤の希望は同じであるが、非常勤の希望は、所属部署内でも異なった。このことから、常勤は勤務（業務）の都合上参加ができない場合があるが、非常勤はライフスタイルに合わせて雇用時間（拘束時間）が限られている為、自身の勤務時間内もしくは生活に支障のない時間帯での研修開催を望んでいると考えられる。『『平日の午前午後に分け最低2回程度同じ内容の研修を開催する』と『研修内容は介護実技・記録等業務に日々関わること（アンケート結果の受けてみたいもしくは興味のある研修から順位の高いものからプログラム）を設定する』³⁾と先行研究では述べているように、ニーズに合わせた開催方法を検討していく必要がある。又、雇用形態、所属部署により希望する内容が異なる為、それぞれの特色を考慮した上での研修プランが望ましい。

外部研修の参加度は高いとは言えず、雇用形態、所属部署での「参加できない理由＝開催日時」は内部研修と同じではあるが、希望する研修開催日時は異なる。職務以外に私的な時間帯での研修は参加時間帯が限られていることが参加度の低い要因の一つとして考えられる。このことから、内部研修と同様、「同じ内容の研修を異なる日時に繰り返し行うこと」で、より参加がしやすくなるのではないかと。しかし、会場や講師の手配などのコストや人手がかかる為、実現は困難である。そこで、研修参加者が、研修の後、自職場で研修内容の伝達、フィードバックする機会を設ける必要があると考える。これを行うことで、研修に参加できなかった者にも、情報の共有が可能となり、職場全体の技術や知識、組織力の向上に繋がるのではないかと。又、「参加目的＝内容や講師」とあり、雇用形態により希望する内容が異なる為、ニ

ーズを把握した上で、研修告知や参加の呼びかけも必要である。

その他に研修に参加できない要因として「産休・育児の為」「家事と仕事で時間がない」という、介護職に占める女性の割合が多い為の要因や「お金がかかる」「場所が遠い」「内容が難しすぎる」といった個人的な要因があがっていた。項目「仕事に関する意識について」では、『ア. 自分の好きな仕事をしている』『オ. 自分の仕事は家族・友人に評価されている』の認識は高いほうであった。仕事に関する意識が自己啓発活動に与える影響を「参加要因」の一つと仮定していたが、介護に関連した自己啓発活動につながっているとはいえなかった。

今後、「費用など職場における自己啓発活動についての支援体制」や「研修参加可能な時間（拘束時間）」「ライフステージごとの（例：出産、育児、親の介護等）と自己啓発活動の関連性」といった視点からの検証も必要ではないだろうか。

V. 結論

内部研修、外部研修共に研修に参加できない要因として「開催時間が悪かったから」が最も多く、「繰り返し同じ研修を行うことで多くの職員が参加しやすくなる」と考えられるが、繰り返し同じ研修を設定することは困難である。研修参加者は研修内容の共有の為、自職場で伝達、フィードバックを行うことが重要となってくる。

雇用形態、所属部署によっても、適した研修開催方法が異なる。部署の特性、ニーズを把握した上で研修を設定、告知することで参加者も増え、全体のスキルアップに繋がると考える。

謝辞

本研究にあたり指導・助言をしてくださった矢原先生、アンケート調査に御協力くださった関係事業所の責任者及び介護職員の皆様に深く感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 中央法規 (2008) 『福祉小六法2008』
- 2) 森本佳樹 (2004) 「職場づくりと福祉人材開発の課題」『月刊福祉』 JULY2004(P44-47)
- 3) 繁友千尋・白石里沙・山本美佐・永住充至「非常勤職員が参加できるまたは参加したくなる『施設内研修』のあり方」『平成20年介護研究セミナー研究発表会抄録集より』